

ギフチョウ

Luehdorfia japonica Leech

チョウ目 アゲハチョウ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

日本特産種で、本州本島にのみ生息している。本県での生息地は少なくはないが、いずれの地域においても土地開発などにより、生息地は狭められている。

形態

開張50mm程度の中型種で、モンシロチョウほどの大きさである。黄色と黒のだんだら模様で、後翅外縁には橙色と青色の斑紋が並び、左右に一对の赤斑とやや長い尾状突起がある。

国内分布

北限は秋田県の鳥海山麓、西限は山口県萩市付近で、東京・神奈川地区、山梨・静岡地区（富士川流域）に孤立分布域がある。

県内分布

能登地方には分布せず、金沢市を通過する北陸自動車道以南の山地に広く分布している。しかし、金沢市戸室山・キゴ山周辺とその北西部一帯、手取川ダム以奥右岸、吉野谷村中宮集落以奥、標高1,000mを越える地域での生息は確認されていない。

生態

主に落葉広葉樹林に生息し、ヒメカンアオイ、ナタデラカンアオイを食草としている。年1回3月下旬から発生し、5月中旬まで見られる。成虫は、明るい林内を飛び、山頂部や尾根筋、伐採跡地などに集まる。卵は、カンアオイ類の新葉裏面に10個程度が並んで産み付けられ、2週間程で孵化する。幼虫期は40日程、地表近くで蛹化し、そのまま越夏越冬する。

生息地の条件

林床にカンアオイ類が豊富に生え、春は明るく夏は薄暗い落葉広葉樹林をおもな生息地としている。金沢市周辺では、管理が行き届いたモウソウテウク林も重要な生息地となっている。

生存の危機

おもな生息場所となっている里山の落葉広葉樹林は、土地開発が最も行われやすい場所である。また、柴刈りや下刈りなどの人手が入らなくなったことにより森林が荒廃し、生息場所は狭められつつある。(A, B)

特記事項

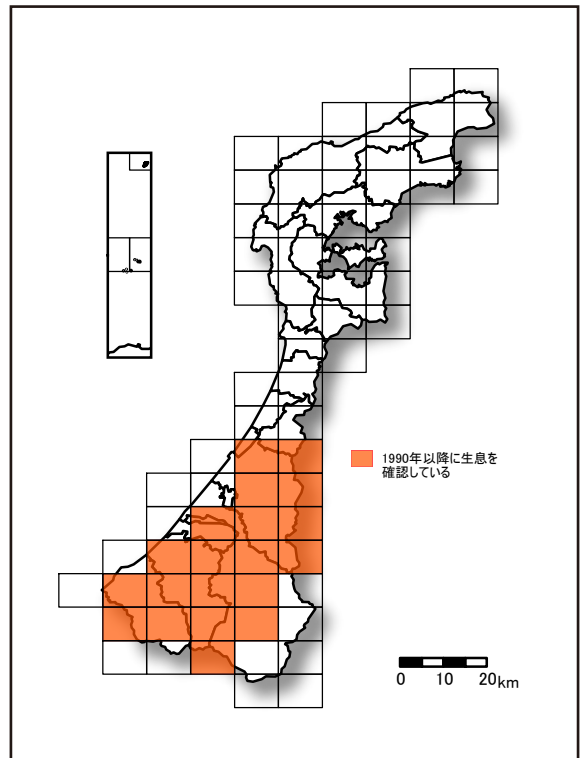
Luehdorfia (ギフチョウ) 属は極東の特産種で、ギフチョウは日本の本州本島にのみ生息する。

参考文献

福田晴夫ほか 1982. ギフチョウ. 原色日本蝶類生態図鑑 (I) : 76-80. 保育社. 大阪.



写真提供者: 松井正人



県内の分布